

追悼 廣田紀昭先生



【略歴】

廣田 紀昭（ひろた のりあき）
昭和 15 年 3 月 7 日生

昭和 39 年 3 月
北海道大学医学部医学科卒業
昭和 40 年 4 月
北海道大学医学部泌尿器科教室において研究に従事
昭和 42 年 6 月
北海道大学医学部 助手
昭和 47 年 3 月
市立小樽病院泌尿器科勤務
昭和 48 年 12 月
北海道大学医学部泌尿器科 講師
昭和 52 年 10 月
広田医院開設 院長

平成 6 年 5 月～平成 13 年 5 月
日本透析医学会理事
平成 13 年 5 月～平成 17 年 5 月
日本透析医学会常務理事
平成 17 年 5 月～令和 2 年 5 月
日本透析医学会顧問
令和 2 年 5 月～令和 3 年 5 月
日本透析医学会名誉会員

廣田紀昭先生は 2021 年 5 月 18 日にお亡くなりになった。総胆管の周りの腫瘍と伺っている。とにもかくにも全く痛くなかったのがうれしい。81 歳であった。僕たちはあらかじめ決めていた。生き残ったほうが葬儀委員長をやろうと。五つ上の僕が先生の委員長をやろうとは思わなかった。しかし運命とはわからぬものだ。

廣田先生のお母様は奈良高等女子師範での才媛だった。その授業を見たお父様がほれられて、結婚を申し込まれたそうである。だから彼は伸び伸びと育てられ、人を疑うということにはなかった。これは生涯続いた。彼の美徳の一つだった。

彼は昭和 40 年北海道大学医学部泌尿器科に入局してきた。ちょうどそのときは、文部省が日本の腎移植はアメリカよりたいへん遅れていると認識し、かなりの予算を付けて、日本の泌尿器科において一斉に腎移植を始める時期に当たっていた。廣田先生は一見丈夫そうだったので、早速腎移植班に入ってもらった。11 時 7 分の終電車に間に合うか間に合わないような実験を週 4 回も行った。僕がまず B 型肝炎になり、すぐ後に廣田先生が B 型肝炎になった。その時初めて君の母上と僕の母が女学校のクラスメートであることがわかった。そのとき 1 年間禁酒していた後のウイスキーは本当にうまかったねえ！ その後、人間の腎移植成功第 1 例目は他の大学にさらわれたねえ！ 残念だった。

それで北大の腎移植は大転換した。それまでは移植前の腎不全は腹膜かん流を行っていたが、当時の腹膜かん流はかん流液を流しっぱなしで、腎不全はよくなるが移植をするとき患者は強い低たんぱくになっていた。それを救うのは人工腎臓にかえるしかなかった。しかし金がなかった。我々はコルフ型人工腎臓を作った。100 L のゴミ箱のプラスチックの桶、プラスチックバケツ、ホース、針金、日立家庭用ポンプ等、ただし血液ポンプは教室の実験用のものを使った。その他で全部で 2 万円と少しでできた。これで血液透析を我々は始めた。そのときの中心人物が廣田先生だった。その後、北大泌尿器科は日本で 2 例目の腎移植例を成功させ、その例は何十年の生存例とした。その後、廣田先生は血液透析の専門家になられた。

開業されてからの廣田先生は長と名の付くものをすべていやがった。その代わり人の嫌がる仕事を黙々としてやった。札幌市医師会の医事紛争処理委員となられた。医師と患者さんの紛争を取り持つ委員会である。こじれた時には裁判沙汰にもなる。ある時、医師がインフルエンザのテストが（-）に出た患者に抗生物質を処方した。その日は金曜日で医師はそのまま遠出した。その後インフルエンザの症状が出た。それがこじれにこじれた。彼はそのようなことを一つ一つほどこいていった。

透析医間の調整にも彼は直ぐ引っ張り出された。大体それで片が付いた。彼は北海道医師会会長と親しかった。そのことは我々にも良いことだった。

日本透析医学会理事も北海道の透析医にとっては厄介な仕事のひとつだった。これも彼に理事をお願いした。透析医にとっても自然災害は大変であった。幸いにして廣田先生の時は災害は少なかった。しかし東北大津波の時は、廣田先生の次の理事の戸澤先生が中心となって、北海道で透析患者を引き受け透析を続けたのはみなが知っている。廣田先生と戸澤先生は親友である。

廣田先生、長い間ご苦勞様でした。少し楽しんでください。衷心より哀悼の意を表します。
(猪野毛健男)